

伝統文化・芸能

●伝承民謡・民踊

笠縫唄 (菅笠踊り)

笠をせいでいして 笠倉建てて
村の庄屋どんに負けぬよに
佐渡の金山遠いと思たら
笠をせいでいすりゃお手の内
歌をうたわしゃれ 話をやめて
話は仕事の邪魔になる
朝ののら唄 日暮れのやけうた
昼の日中は仕事うた
笠を買うなら 深江でかやれ
馬の足がたこれ名所



絵・杉村清秀氏

●区内のだんじり



中本のだんじり

比賣許曾のだんじり



中道のだんじり





西今里のだんじり



東今里・神路のだんじり

大今里のだんじり



深江のだんじり





区内のだんじり7台勢揃い(東中本公園)

現在、東成区内には7台のだんじりが現存し、いずれも地区の祭礼に曳き出されています。

さて、区内ではいつ頃からだんじりが曳行されたのか、今のところ明確には判明しておりませんが、現在、城東区諏訪で曳かれている元“中本のだんじり”が最も古く、中本では慶応年間（19世紀中頃）製作と伝えられており、形式から見てもそれがうかがえます。このだんじりの彫師は長谷川市三郎師と伝えられ、江戸時代の寺社関係の彫師であったと思われます。一方、だんじり大工は判明していませんが、旧本庄村に江戸末期から明治後期にかけて活躍した、通称「本庄だんじり屋」と呼ばれるだんじり大工がいたことが知られており、少なくともこのだんじりの製作にかかわりがあったと思われます。このだんじりの製作年代からも分かるように、区内では、江戸時代後期から明治にかけて、各村々で順次だんじりが曳かれ始めたようです。

曳行の様子も昔と今ではかなりの違いがあります。昔は、どこの村でも祭の夜になると男も女も

仮装をして綱を引きながら「だんじりこけても気にしてくれな、後に若い衆がついている。アン・ソレソレ」と色々な文句の曳き歌を歌いながら、夜遅くまで曳いたものです。

鉦と太鼓で賑やかに演じられる、だんじり囃しには、道中（地囃し）と据え置き（へたり囃し）があり、大阪各地には天満台・追い天満・新堀・吉野・八幡流し・本町・北新・今里など地名のついた囃しや、いたち囃し・たぬき囃しなどが多く伝えられています。

しかし、今は昔のように色々な囃しの出来る人も少なくなってきており、各保存会ではそれぞれ独自の囃しを伝承していくことに努めています。

平成元年（1989）8月に開催された大阪市制100周年記念東成区民まつりには、区内7台のだんじりが会場の東中本公園に曳き出され、それぞれけんを競っただんじり囃しが、いやがうえにも祭り気分を盛り上げ区民のコミュニティづくりに大きな役割を果たしました。